

審判員の先生方へ

(第57回福井県少年剣道錬成大会)

本日はご多忙の中、審判の労をおとりいただき、誠にありがとうございます。一日よろしくお願ひいたします。

【暫定的な試合・審判の方法】

- 1 本日の試合は、全日本剣道連盟「剣道試合・審判規則、同細則」及び新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法に準じて行います。
試合時間は、団体戦は2分3本勝負、時間内に勝敗が決しない場合、引き分けとします。
なお、総勝者数、総取得本数が同じの場合、任意の選手による代表者戦を行います。試合時間は2分1本勝負、時間内に勝敗が決しない場合は時間を区切って勝敗が決するまで延長戦を行います。
また、個人戦は2分3本勝負、時間内に勝敗が決しない場合は、時間を区切って勝敗が決するまで延長戦を行う。団体試合代表戦、個人戦の延長戦は、2分ずつ時間を区切って勝敗が決するまで行い、延長2回でその場で深呼吸、更に延長2回で給水時間とることとする。給水は自分のベンチに戻って面を外す（2分間）
- 2 鐮競り合いに関しては、全日本剣道連盟の「新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法」を準用する。

※令和5年4月23日 福井県立武道館での伝達講習会で示された内容

【審判員と試合者が共通に理解する主な事項】

- (1) 意図的な時間空費や防御姿勢（勝負の回避）による相手に接近するような行為は、規則第1条に則り反則を適用する。
- (2) 攻防や打突行動の中で相手と接触した場合、接触した瞬間の引き技や体当たりからの技（発声を含む）を積極的に出す。また、「つば（鎧）競り合い」になった場合は、技が出ない時には速やかに積極的に分かれる。試合者は、審判員の「分かれ」や「止め」の宣告を待つのではなく試合者双方で分かれる努力をする。
- (3) 「つば（鎧）競り合い」解消に至る時間はおよそ「一呼吸」（目安として3秒）とする。
- (4) 相互に分かれようとしている途中に技を出さない。この場合は技を出しても有効打突とはしない。一方が分かれようとしている時に追い込んで打突する行為や、分かれようと見せかけて打突する行為は反則を適用する場合がある。また、分かれる途中に相手の竹刀を「叩いたり」「卷いたり」「押さえつけたり」「逆交差」をしない。（審判員は状況や原因を踏まえた上で合議により判断する）
- (5) 試合者は、分かれる場合は剣先が完全に触れない位置まで互いに分かれる。
- (6) 分かれる場合は剣先を開いたり、下げて分かれない。

(7) 「つば（鍔）競り合い」を解消する場合は双方がバラバラに下がらない。また、双方が徐々に下がるのではなく、正しい「つば（鍔）競り合い」から鍔と鍔で競り合う（押し合う）力を利用して一気に下がる。

(8) マスクとシールドの着用

選手：面をつけた時

　面マスクまたはシールドを着用する。

　マスクは、口鼻を隠し、正しく装着する。

　シールドに関しては、口を覆うものは必須とし、目を覆うものは自由とする。

：面をつけた時以外

　マスクの着用は個人の判断とする。

審判：マスクは着用しない。但し、控え席等でのマスク着用は個人の判断とする。

◎鍔迫り合いに気を取られ有効打突の見逃しのないように注意をお願いします。

3 審判員は各自の審判旗を持参して使用する。

4 審判中、審判員の関係している選手が出てきた場合、主審、副審を問わず、その場にて控えの審判員と交代してください。

5 応援については飛沫防止の観点からも拍手のみとする。試合場において過度な応援がみられる場合は指導してください。指導に従わない場合は大会本部に連絡してください。

6 控え席からなるべく離れないようお願いいたします。止む無く離れる場合は、審判主任の許可を受けてください。（審判順序の確認）

　試合開始の「正面への礼」は本部席において通告いたします。最終試合の「正面への礼」は各試合場にて行ってください。

7 試合者、保護者の納得のゆく審判をお願いいたします。

　審判も動画が撮られているという事を念頭に、1本の判定はもとより、所作・待機している時の姿勢などにも十分注意してください。